

余震・寒波・大雪の被災地の今

12月7日、過去最大の余震が東日本全域を襲った。あの日から1年9ヶ月が過ぎた被災地に再び、恐怖と不安を呼び起こした。その日、追い打ちをかけるように大雪に見舞われている地域もある。厳しい冬の到来である。仮設住宅の冬は、夏にまして厳しい住環境にある。津波に流された街に新しい道も、新しい建物もまだ姿を現していない。見渡す限りの雑草地は、幾分か生命力を感じさせていたが…今、枯れ草の上に舞う雪は、もの寂しさを増す……その土地で、今、被災者は「暮らしを立て直す」ために歯を食いしばって生きている。

何度もなんどもありがとう

11月22日、気仙沼で支援物資の受け渡しや、被災地の状況をつぶさに連絡して下さっている先輩の吉村さんが「皆さんに是非お礼を申し上げたくて」と仰って突然来校されました。今まで支援物資を受け取って頂いた方々からのお礼状に丁寧に目を通され、頷きながら、「卒業してから30年近くたっているのにこんなに温かな支援をして下さる母校が誇りです」と実行委員に話す姿が印象的で、感動的でした。

応援の輪広げる

ホームカミングデー&
チャペルコンサートでも
私学フェスティバルでも

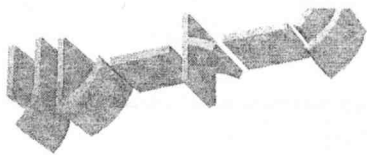
実行委員会の十一月の活動は、一台でも多くのデジカメと一冊でも多くのアルバム一枚でも多くのCDを被災地に届けるための資金を集めながら、被災地への応援の気持ちを広げる活動に精を出してきました。結果、三二〇五八円の気持ちで寄せられました。また、高校Aコースの修学旅行に、お土産としてお箸を持参して下さって二五〇〇〇円の売り上げを頂きました。感謝！

学び愛、育ち愛の絆を

私たち実行委員は、被災地の応援を通じて、自分自身が成長したと実感できるような活動をしていきたいと思っています。先輩が大震災が起きた1ヶ月後に、「自分にできることを実行に移す」ために立ち上げたその気持ちを「息長く続ける」ために活動に参加しています。

昨日は、世界から集まってきたキズナプロジェクトの留学生5人の被災地訪問の感想を聞く機会が与えられました。(感想の一部を裏面で紹介しています) また、立命館高校から生徒5名と先生が「一緒に取り組んで欲しい企画」についての説明に来られました。私たちは、被災者や、ボランティアの方々などからのお話や情報から学びながら、自分自身の心を豊かに育てると共に行動力を養っています。「自分さえよければよい」と考える人々はそんなにいない。そして人は優しく温かいということ、この活動を通して分かってきました。

あなたも、あなたができることを、無理しない範囲で、私たちと一緒に続けていきませんか。



キズナプロジェクトに参加した留学生からの被災地報告

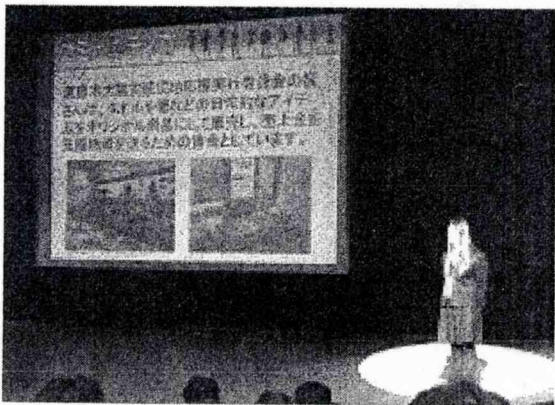
People living in New Zealand could really learn a lot from the Japanese and their ways of crisis management. Even though these people have been through very dramatic experiences they still managed to look after us immaculately and were always smiling for us.

ニュージーランドでは、災害時の危機管理について日本から多くのことを学びました。被災した人たちは大変な経験をしたにもかかわらず、私たちを笑顔で受け入れてくれました。

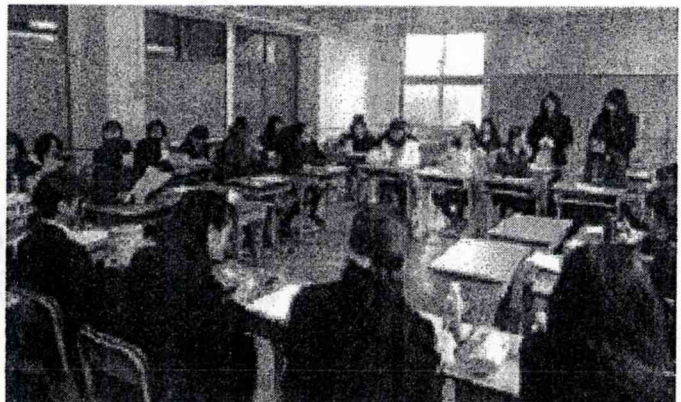
It was sad to see how the tsunami had affected the people life but at the same time it was amazing to see how strong the people there are in facing the disaster. Local people there are so lovely and welcoming. They took care of us so well than I had imagined.

津波の被災地域を見てきて衝撃を受けました。しかし同時に、彼らが災害に立ち向かいたくましく生きる姿にも心を打たれました。予想以上に、東北の人たちは温かく私たちを受け入れてくれました。

I was surprised by their strength in Oshima. Smiles are still on their faces. After the earthquake and tsunami, they have been rebuilding the island. I met a lot of people. They are all really kind. They tried their best to make us feel comfortable. 大島の人たちはずっと笑顔でいて、彼らのたくましさに驚きました。大地震と津波による多くの被災者に会ってきました。彼らはとても優しく、私たちにも気づかせてくれました。



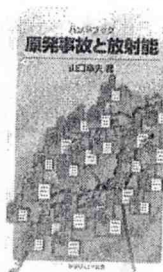
9日に行われたボランティアスピリット賞授賞式



キズナプロジェクト留学生との交流、立命館高校からの呼びかけ

震災を考える図書紹介

<図書室より・新着図書から>



「救える命を、ぜったいに救おう。」

「災害救助犬レイラ」。

震災直後から立ち上がる石巻市の日々を綴る「ふたたび、ここから」。

日本中の原子力発電所に共通すること「原発事故と放射能」。

是非読んでみて下さい。